

2009年3月19日

愛知県知事 神田 真秋 様
愛知県企業庁長 宮島 寿男 様

愛知県野鳥保護連絡協議会
議長

豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業に関する再度の見解ならびに要望

日頃からの自然環境問題に関するご尽力に感謝申し上げます。

さて、愛知県が豊田市・岡崎市一帯の山林・農耕地660haにおいて実施予定の「豊田・岡崎地区研究開発施設用地造成事業」計画について、私達は修正された計画の説明を愛知県企業庁及び(株)トヨタ自動車から2008年12月3日に受けたところですが、ここに愛知県野鳥保護連絡協議会の見解ならびに要望を改めてお知らせ致します。

当日の鳥類に関する記録説明からは、愛知県やトヨタ自動車の調査がきめ細かく厳密に行われていることが伺われ、この点は評価を致しております。

説明では事業実施区域内にはこれまで繁殖していることが公にされてきたサシバ(絶滅危惧Ⅱ類・VU)やハチクマ(準絶滅危惧・NT)のみならず、他にも絶滅危惧ⅠB類(EN)が3種、猛禽類を含む絶滅危惧Ⅱ類(VU)が3種も夏期(繁殖期)に確認されているとのことでした。

それにも関わらず、修正された計画で造成事業は実施されるとの説明に私達は納得することはできず、12月3日当日、その旨を報道関係者を通して公にしてきました。

修正された事業計画では土地の改変面積は410haから280haに縮小されましたが、280haとは愛知万博長久手会場(168ha)の1.7倍もの広大な面積です。これほどの広大な土地の改変を行うことが、県民および国民的合意が得られるものとはとても思われません。

事業計画予定地はこれまで少なくとも数百年間、自然環境と共生し多くの人々の生活基盤として続いてきた所謂「里地・里山」の環境です。この環境を改変せずに維持・存続させることこそが、COP10を開催する愛知県の世界に対する責務と考えます。

この事業が周辺地域へ及ぼす影響も無視することはできません。事業が完成すれば5000人以上もの従業員が通勤することとなり、アクセス道路やインフラの整備による環境への影響は計り知れないものがあります。周辺地域は準絶滅危惧(NT)のオオタカも繁殖しているなど、本事業計画地域の自然環境に劣らぬ地域です。愛知県が愛鳥モデル校に指定する小学校もあるほどです。

そもそも愛知県は「自然の叡智」と謳った環境万博を開催し、その成果を生かして来年の生物多様性条約締約国会議(COP10)を誘致した、自然環境保全の意欲に燃える、誇り高き自治体と考えます。私たち県民と末永い子々孫々の長期的な利益に鑑み、代替地の真摯な検討・確保により、本事業計画による里地・里山環境の破壊を回避されるよう求めるものです。